



## 目に、黒いところと白いところがあるのはなぜ

### それぞれ、目が見えるための役割がある

目は、ボールのような丸い形をしており、目玉、眼球などとよばれています。そして、目のしくみは、カメラのしくみに、とてもよく似ているのです。

目にもレンズがあり、水晶体とよばれています。水晶体の前には、虹彩という膜があって、カメラのしぼりのような役目をしています。この部分が、目の黒いところです。

また、眼球のおくには網膜があり、写真のフィルムのような役目をしています。そして、眼球の中は、硝子体という、液体ガラスがつまった暗箱になっており、眼球全体が、カメラのボディというわけです。この部分が、目の白いところです。このように、目の、黒いところと白いところには、それぞれ、目が見えるための役割があるのです。

### 黒目だけでは物は見えない

目の黒いところは、ふつう、黒目といただきます。ひとみと虹彩があり、「角膜」とよばれる、無色透明の膜が、前面をおおっています。

目の白いところは、白目とよばれています。「強膜」という乳白色で不透明な膜で包ま

れていますが、白目とよばれるのは、そのうちで、前方から見える乳白色で白い部分だけです。

物が見えるためには、黒目のところの水晶体を通った光が、白目のおくにある網膜にどき、この網膜が感じた光や色が、神経を通過して脳に伝わらなければなりません。ですから、目は、黒いところと、白いところがなくては見えないのです。(監修・保志 宏)

眼球のしくみ

